



子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

〒146-0082 東京都大田区池上 1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
http://www.kodomono-mori.net mailto:info@kodomono-mori.net

J P 子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2019年7月号)

「J P 子どもの森づくり運動」とご縁をさせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



長かった梅雨も明け、本格的な夏がやって来ます。

熱中症など、体調管理にご留意下さい。

暑さに弱いのは“どんぐり”の苗木も同じ。十分な水やりをお願いします。

写真は、今年、岐阜県「浄心こどもの城」の子どもたちが植えた苗木です。

この夏の暑さを乗り越えてくれますように。

(目次)

1. J P 子どもの森づくり運動「園庭の緑化運動」モデル事業参加園募集のご案内
2. 参加園活動報告
3. 事務局からのお知らせ

*「どんぐり博士の育苗日記」～2019年7月号～

■「J P 子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P 子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「J P 子どもの森づくり運動」運営体制

・運 営 : NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）

・特別協賛 : 日本郵政グループ

・後援/協力

（公社）全国私立保育園連盟

（公社）国土緑化推進機構

（一社）日本森林インストラクター協会

NPO法人MORIMORI ネットワーク

（株）実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部

（公社）大谷保育協会

NPO法人C・C・C 富良野自然塾

NPO法人自然体験活動推進協議会

（一社）日本オート・キャンプ協会

保育環境研究所ギビングツリー



1. J P子どもの森づくり運動「園庭の緑化運動」モデル事業参加園募集のご案内

J P子どもの森づくり運動が、これからの10年で取り組む新しいプロジェクト、**1本の苗木を植えることから始める「園庭緑化運動」**（以下、**本プロジェクトと表記**）モデル事業への参加園募集のご案内です。本プロジェクトは、「**国際校庭園庭連合日本支部**」（**International School Grounds Alliance -Japan**）代表であり、長く校庭・園庭研究に取り組んでおられる鶴見大学短期大学部 保育科 准教授 仙田考先生の指導のもとで推進されます。先月号の通信では、仙田先生から、主に園庭緑化の意義・目的についてご寄稿いただきました。今月号では、まずおさらいとして、仙田先生からご提示いただいたポイントを含めて、園庭緑化の意義を確認することから始めたいと思います。

1) 保育・幼児教育における園庭緑化の意義・目的

●園の生活のなかで、小さくとも子どもたちが日常的に関われる自然体験の場を提供できること。

●園庭にさまざまな樹木があると、春の若葉、夏の緑、秋の紅葉、そして冬の落葉と、季節ごとの変化が楽しめる。樹木は1本だけでなく、何本かの木立ちや森があると、木々の周りをめぐってみたい、風に揺れる葉のさざめきを楽しんだり、木登りをしてみたい落葉を集めた落ち葉プールで隠れたり寝転んだり、子どもたちに楽しい自然あそびの空間となること。



●このような園庭環境での自然遊びを実践するためには、子どもたちが主体的に遊びを作り出すための自然の環境や素材、機会を準備する「環境創生」活動と、日々の工夫によって新たな自然とのかかわり方が生まれる「環境構成」活動を合わせた、保育者、保護者、地域の人たちによる連携した取り組みが大切であること。

●子どもたちは豊かな体験を通して育っている。保育者としては、安全面や植物、生き物への生育・生息環境への配慮を十分行いつつ、園の中で、子どもたちにできるだけ多くの自然との出会いの機会を心掛けたいこと。

本プロジェクトは、保育・幼児教育における上記の意義・目的を実現するために取り組みます。

2) 「園庭緑化」モデル事業への参加園募集

園庭緑化事業は、とかく大規模なものとして捉えられがちですが、本プロジェクトでの提案は、まずは子どもたちが育てた地元の“どんぐり”の苗木を植えることから始める**手づくりの「園庭緑化運動」**です。今月号では、本プロジェクトの理念にご共感いただき、モデル事業として共にあるべき園庭づくりに取り組んでいただける園を募集します。以下の応募要項をご検討いただき、参加をご検討いただけますようお願い申し上げます。参加ご希望の園は、事務局（子森ネット）までお申し込み下さい。詳細は、個別にご案内させていただきます。

<モデル事業参加園募集要項>

- 1) 本プロジェクトの募集は、J P子どもの森づくり運動参加園を対象とします。
- 2) 園庭緑化事業について、鶴見大学短期大学部 保育科 仙田考准教授をはじめ「国際校庭園庭連合日本支部」のブレンによる指導、サポートのもとで行われます。
- 3) 必要に応じて、事業費を補助する助成金の申請手続きをサポートさせていただきます。（例：「緑の募金」）
- 4) サポート体制の事情で、2019年度のモデル事業受付園数は、先着、3園とさせていただきます。（締切り8月末）
- 5) 本プロジェクトの主体は、あくまで参加園であり、園の希望、事情に沿って運営されます。

2. 参加園活動報告

1) 岐阜県 認定こども園「浄心こどもの城」地域での活動報告

1)実施日：2019年6月8日(土) 13:00～14:00

2)場所：岐阜県郡上郡白鳥町「油坂さくらパーク」

3)参加者：年長組、及び保護者60人 4)インストラクター：村上インストラクター 5)植樹本数：クヌギ、ウバメガシ約30本



開会式 園長先生のごあいさつ



家族で1本の苗木を植えました。



苗木を添え木で支えました。



記念撮影

2) 広島県 「山本まごころ保育園」東北の“どんぐり”を見送る活動

1)実施日：2019年5月10日(金) 2)場所：自園 3)参加園児：そら組（年長）40名

4)日本郵政グループ参加者：山本郵便局 局長 堀元正治さん



人形劇で、活動の意味を子どもたちに教えました。



局長さんから郵便ポストの歴史を教えてくださいました。



♪どんぐりえがお体操を踊りました。



郵便車に“どんぐり”の苗木を積んでもらい、見送りしました。

3. 事務局からのお知らせ

1) 「保育に役立つ自然・環境体験講座全国キャラバン」シミュレーション講座開催

2019年6月8日(土)岐阜県「浄心こどもの城」の植樹会と併催で、今秋予定されている「自然・環境体験講座全国キャラバン」のシミュレーション講座を開催しました。当日は、インストラクターの塚原事務局長の指導で、五感を使った自然の宝物探しプログラム「フィールドビンゴ」を実施しました。秋のキャラバンに向けて、様々な事例が蓄積されました。



2) 「東北復興グリーンウェイ」福島県での活動レポートが、子森チャンネルにアップされました。

* 視聴方法：子森ネットホームページ ⇒子森チャンネル&通信 ⇒子森チャンネル

* 右のQRコードからでもご覧いただけます。



●どんぐり博士の育苗日記(2019年7月号) ～梅雨入りの珍事～

西日本の多くで梅雨明けが発表された日、東日本は梅雨寒から解放されました。遡れば西日本より東北北部の方が、梅雨入りが早かった変な梅雨でした。子森ネット森林インストラクター：河内和男（どんぐり博士）



東北北部の梅雨入りが、四国や近畿地方よりも早かったのは1974年以来の珍事だそうです。この珍事の原因は、夏をもたらす太平洋高気圧の日本への張り出しが弱く、梅雨前線がなかなか北上しなかったためです。それで九州南部以外の西日本は、梅雨入りが大幅に遅れました。

ではなぜ、梅雨前線からもっと遠い東北地方で、梅雨入りが発表されたのでしょうか？それは、梅雨の天候をもたらすもう一つの主役オホーツク海高気圧が発生したためです。冷たく湿った北東気流が流入して、日照時間が少なくなり、雨がちの日が続くようになるため6月7日に東海から東北南部まで梅雨入りが発表されました。もちろん関東もです。

ただ、オホーツク海高気圧からの気流、いわゆる「やませ」の影響を受けるのは、岩手県や青森県などの東北北部のイメージが強いですが、しかし、東北北部の梅雨入りは、6月15日の発表となっています。「やませ」型の天候が、関東にも及んでいながら、東北北部で晴れの日が続いていた点も珍事かもしれません。そして6月27日に、平年より20日前後遅れて、西日本各地の梅雨入りも発表されました。

東日本の日照不足と低温・多雨がこの梅雨の特徴でした。このような「やませ」型が長期間続いた夏は冷夏になる可能性が高いのですが、過去の例の通りには行かないのが最近の天気。冷夏から猛暑へと予報が変わりました。苗への水やりに苦労せずにきた地域の皆さん。今後は天気にあわせて、苗管理に注意してください。